朝の学び「主の教会につらなって生きる」

第16回　聖礼典（１）聖礼典とは

　教会が教会であるためのしるしは、御言葉の説教と聖礼典です。このふたつは教会の命のしるしであり、またキリストの臨在のしるしです。説教と聖礼典をとおして生けるキリストが礼拝に臨在され、キリストの福音の恵み―罪の赦しと永遠の命の恵みが教会に持ち運ばれます。そのように、説教と聖礼典はともに教会のしるし、キリストの臨在のしるしであるという点では共通していますが、しかし違いもあります。

御言葉の説教は信仰を生み出す働きをなします。「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」（ローマ１０：１７）と言われるとおりです。一方聖礼典は信仰を生み出すことはできません。聖礼典の役割は、御言葉によって生み出された信仰を確かにし、強めることです。ちょうど公文書に認め印が押されるように、神は聖礼典をとおして私たちの信仰を確かなものとしてくださるのです。

　聖礼典はまた、御言葉の恵みを目に見えるしかたで表す（洗礼は水、聖餐はパンと杯によって）ゆえに、「見える御言葉」とも呼ばれます。

　聖礼典は洗礼と聖餐のふたつです。キリスト御自身がこれを定めたまいました。

　洗礼の水は、わたしたちの罪を洗い清めるキリストの十字架の血潮と霊をあらわしています。洗礼はわたしたちがキリストと共に十字架に死に、葬られ、キリストと共に永遠の命に復活し、キリストと結合される恵みを目に見えるかたちで示しています（ローマ６：１以下）。そして洗礼によって、わたしたちは主イエスの体なる教会につらなります（洗礼式を洗礼「入会」式と呼んでいる教会もありますが、これは意味としては正しいのです）。

　聖餐のパンは十字架の上で裂かれたキリストの体を、杯は流された血潮をあらわしています。聖餐の食卓を囲み、主の体を飲み食いするたびに、わたしたちは罪の赦しと復活の命の恵みに満たされます。この永遠の命のパンに生涯にわたってあずかり続けることによって、わたしたちは新しい人につくりかえられ、繰り返しキリストの命の恵みの力を受け、そして終わりの日には体の復活と永遠の命の祝福にあずかるのです。

　聖餐の礼典がこのように奥深いものであるゆえに、成人洗礼を受けた人と、幼児洗礼を受けて信仰を告白した人だけがこの礼典にあずかることをゆるされています。幼児洗礼を受けていてもまだ信仰告白をしていない人はあずかることができません。主の十字架と復活による罪の赦しと永遠の命の恵みを信じ、受け入れていることが聖餐を受ける条件なのです。